

春の訪れをいち早く告げるマンサクはもう咲いたでしょうか。我が家では蠟梅(ロウバイ)がちらほら咲き始め、寒さの向こうにある春の到来を感じさせます。

とは言えまだまだ寒い日のほうが多く、春の暖かな陽射しを待ちわびながら新年度予算編成と第六次総合計画策定に精力的に取り組んでいます。

令和5年度の予算案は、第六次総合計画の最初の年度ということもあり、将来を見据えて予算案を編成するよう心掛けております。厳しい財政状況の下であっても、少子化対策や子育て支援、地域産業への支援も継続、また職員の創意工夫でいくつかの新政策を予算化、あるいは新たな仕組みを導入してまいりたいと考えております。

「どうする家康」は今年のNHKの大河ドラマですが、総合計画や予算案といった業務だけでなく、毎日毎日が「どうする村長」の連続のような気がしています。様々な課題や事象についてトップとしての判断を誤ることなくできているのか!?自問自答の日々が続きます。テレビで15日の小正月に小豆粥を作り、二人組になって実のなる樹の下へ行きナタやオノで幹に少し傷をつけ、そこへ小豆粥を供え「成るか、成らぬか」と問いかけ、もう一人の人が「成ります、成ります」と答える「成木責め」という豊作を祈願する風習が紹介されていました。全国的に似たような風習が伝えられているみたいですが、岐阜県では中津川市付知町の辺りではこの風習が有ったみたいですが、東白川村でこの風習が有ったか無かったかわかりませんが、現在策定中の総合計画や新年度予算案「成るか、成らぬか」と自問したい気分です。

現代のように混沌とした社会情勢のなかでは、特に希望・前進・チャレンジといった前向きな言葉で物事に立ち向かう姿勢が無くなったら一步も前に進めなくなる。そんな強い気持ちで職務に取り組んで行きたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症は5月8日をもって感染症の分類上2類からインフルエンザと同じ5類へ転換することが決定されました。岐阜県では「医療ひっ迫防止対策強化宣言」が2月12日まで延長されていましたが、新規感染者数や病床使用率が減少したことにより2月5日で終了することになりました。しかし、今後も引き続き感染防止への取り組みは必要であり、高齢者や基礎疾患のある方の重症化リスクが高いこと、無症状の方でも後遺症に苦しむことがあるなどの実態に変わりはありません。宣言は終了しましたが、引き続きオミクロン対応型ワクチンの接種の推奨、適切なマスク着用、換気などの基本的な感染防止対策の徹底、体調不良時の慎重な行動、混雑している感染リスクの高い場所への外出や、マスク無しの会話、長時間、大人数での会食は慎重にすることなどの注意喚起が要請されています。

インフルエンザの流行も始まりましたので、自分の健康は自分で守るという気持ちで、一年で一番寒い時期をどうか健やかに過ごして下さい。

令和5年2月

東白川村長 今井俊郎